

(連絡先)

〒213-0033 川崎市高津区下作延4-22-12-411

電話&FAX 044-877-6317

ホームページ <http://www.horizoe.com>

電子メール horiken@horizoe.com

新しい年を迎えて

一さらに充実が必要な少子化対策

(事務局)

いよいよ新しい年を迎えました。川崎市にとって、本年の課題はなんでしょうか。

(堀添)

はい。やはり、まずは地震対策に力を入れる必要があります。具体的には、公共施設や家屋の耐震補強を進めるとともに、地域社会の活性化を支援する枠組みをつくらなければなりません。

そして同時に、少々長期的な取り組みになるかもしれませんが、持続可能な社会にしていくために、私たちが置かれている状況を冷静に整理し、何ができるのか、何をしなければならないのかを明らかにすることです。

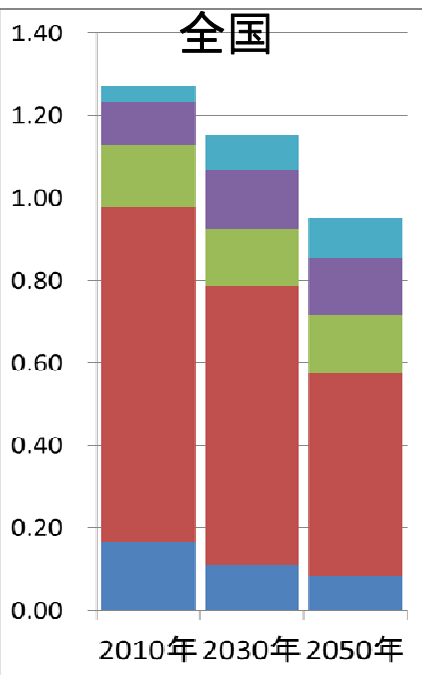
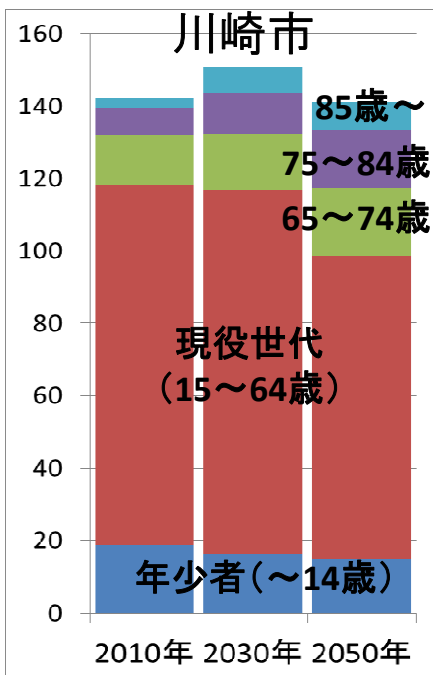
いずれにせよ、現在のように、あまりに急速に進んでいる少子化傾向をそのままに、持続可能な社会は構築できません。仮に今年、急に子どもが増えても、その子どもたちが社会の担い手になるには18年以上の歳月が必要です。少子化対策は最優先課題と言えます。

下の図は、川崎市と全国の将来人口推計を示したのですが、すでに子どもだけでなく現役世代も急速に減り始めています。また、高齢者全体も増えますが、それ以上にいわゆる後期高齢者の人数が急増しますので、それを支えるだけの福祉・医療サービスの拡充を実現しなければなりません。そのための仕組みを整備するとともに、



by A. Misawa

- 1963(昭和38)年2月6日、高津区に生まれ、高津小学校出身。桐朋中学、高校を経て東京工業大学を卒業。
- 東京都三鷹市で9年間、地域情報化やプライバシー保護等に従事。
- セブーンイレブン本部での情報システム構築をはじめ、ITを活用したシステムづくりに従事。
- 2003年4月、川崎市議会議員に初当選。
- 2007年4月、同2期目当選。
- 2011年4月、同3期目挑戦するも惜敗。
- 民主党神奈川18総支部 幹事長
- 民主党神奈川県政策委員
- 川崎地方自治研究センター客員研究員
- 経済産業省 システム監査技術者
- 妻と長女の3人家族 下作延在住



並行して社会の担い手を増やす施策をとり、激変緩和をしなければなりません。

(事務局)

どんな施策が必要ですか。

(堀添)

日本は、欧米諸国と比較すると、子ども一人当たりに使われている公的支出が1/2~1/4と言われています。まずは家計にかかる大きな経済的負担を、少なくとも欧米諸国並みに社会全体で担っていく、ということだと思います。また、女性や元気な高齢者の社会参加を支える仕組みづくりや雇用対策も大切です。

(事務局)

ありがとうございました。

寄稿

地域力の強化のために何ができるか

前川崎市議会議員 ほりぞえ健^{けん}

震災で明らかとなった
地域力の大切さ

昨年「東日本大震災が起きた年」として、これからも記憶されることになると思います。被災地は、い

まだ復旧・復興にはほど遠い状況ですし、高津区でも、放射能や電力供給の問題をはじめ、少なくない課題が

残されています。

私自身、被災地を訪れてみて痛感したのは、大規模災害に際しては、いかに「地域力」が大切か、ということです。

考えてみれば当たり前のことですが、大規模災害が起きれば、電話網は遮断され、仮に家屋が倒壊し

て救急車を呼ぼうとしても、おそらく119番の電話は繋がらないでしょう。また、道路も寸断され、救急車や消防車が通行できない状態ではなくなります。

つまり被災直後は、行政や消防の助けはまず期待できず、こうした状況は少なくとも三日間から一週間程度は続きます。

もちろん、大規模震災に對して、消防や行政の対応力を強化していくことは大切ですが、しかし、それだけでは不十分であり、それぞ

れの地域を活性化させ、地域力を強化していくことが、防災対策の上でも決定的に重要であることが、改めて証明されたと言えるのではないのでしょうか。

地域力の強化のために
何ができるのか

現在、町内会や自治会をはじめ地域コミュニティ活動はボランティアによって支えられており、自治体としての支援やかかわりはごく一部にとどまっています。こうした関係を見直し、地

けん
ほりぞえ健

今回の被災地でも、地域コミュニティ自身が一軒一軒安否確認を行い、必要であれば手助けを行ったところでは、それだけ地震や津波の被害を小さくすることができていました。

けん
ほりぞえ健
事務所

〒213-0033
高津区下作延4-22-12
☎044(877)6317
E-mail: HoriKen@horizoe.com

プロフィール

- 1963(昭和38)年2月6日、高津区に生まれ、高津小学校出身。桐朋中学、高校を経て東京工業大学を卒業。48歳。
- 東京都三鷹市で地域情報化やプライバシー保護等に従事。
- セブーンイレブン本部での情報システム構築をはじめITを活用したシステムづくりに従事。
- 2003年、川崎市議会議員に初当選。
- 2011年、同3期目に挑戦するも惜敗。
- 妻と長女の3人家族。
- 民主党神奈川県政策委員
- 川崎地方自治研究センター客員研究員

域コミュニティが果たすべき役割にふさわしいものへと大きく変えていかなければならないと思います。それとともに、私たち自身も、地域力の強化のために何ができるのかを、考え実行していくことが求められているのではないのでしょうか。

(高津区版 2012.1.1号)

タウンニュース

発行責任者/宇山 知成
編集長/木曾 祐司
高津区版編集室・〒216-0035川崎市宮前区馬場2880-1 http://www.townnews.jp

政治資金ご寄附のお願い

地元から日本改革を実現するために、ご支援賜りますよう、お願い申し上げます。

「ほりぞえ健後援会」宛

郵便振替：高津郵便局 口座00270-1-24169
銀行振替：川崎信用金庫 高津支店 普通0796294